辺野古土砂北九州

発行…2023 年 3 月号・№39

写真は富野弾薬庫(北九州市小倉北区・正式名称は富野分屯地)の入口。富野弾薬庫は 1933 年(昭和 8 年)、住民から強制的に土地を取り上げて、1935 年(昭和 10 年)に完成。1938 年(昭和 13 年)小倉陸軍造兵廠の専用弾薬庫として発足しましたが、戦後 1945 年(昭和 20 年)9 月に米軍が接収。朝鮮戦争時には、米軍の出撃・補給基地となり、弾薬の搬出・搬入が増大しました。朝鮮戦争休戦状態に入り、1955 年(昭和 30 年)米軍から日本に返還されました。
※2 ページに関連記事あり。

≪目次≫

【北九州市小倉北区】富野弾薬庫も強靭化施設の対象に…… 2 ページ
【沖縄】戦争を止めようと県庁前広場で 1600 人集会……3 ページ
【連続エッセイ】「共同売店」の危機と未来(浦島悦子)…… 7 ページ
【連続学習会・安保条約】1 回目報告(天久泰)…… 8 ページ
【訃報】ありがとうございました西山太吉さん…… 11ページ

写真はネットからとらせていただきました

発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

ウクライナでは、弾薬庫が一番にねらわれた

富野弾薬庫(小倉北区)基地強靭化対象に

朝鮮戦争時には、弾薬の搬入も搬出も増大

防衛省が約4兆円をかけ、全国に約300ある自衛隊基地(2万3000棟)を、化学、生物、核兵器などの攻撃に耐えられるようにするため、ゼネコン関係者との意見交換会を、昨年12月と今年2月に開いていたことが、3月2日の参議院予算委員会で、明らかになりました。

防衛省自身が「これまで経験したことのない規模の事業量だ」と言う程の、すさまじい基地強化が行われようとしています。裏を返せば、日本が敵基地攻撃を行えば反撃され、日本中が攻撃にさらされる危険があるから、これだけの基地の強靭化をすすめるということです。

政府の示す「基地強靭化対象地区一覧」によると、北九州近辺では、富野弾薬庫(小倉北区・正式名称は富野分屯地)、小倉駐屯地(小倉南区北方)、芦屋基地、築城基地などの名前が記載されています。特に富野弾薬庫は西日本最大で、足立山北側の「丸山」をくり抜いた、13本のトンネル式の弾薬庫があります。戦争の足音は、私たちのまわりでも大きくなっています。

富野弾薬庫近辺の地図。小倉北区在住でない方には、位置関係がわからないと思います。すみません。

県庁前広場に、与那国・宮古・石垣からも

「島々を戦場にするな！ 沖縄を平和発信の場に！ 2.26 緊急集会」に 1600 人

２月 26 日、沖縄県の県庁前広場で 1600 人が、「島々を戦場にするな！ 沖縄を平和発信の場に！ 2.26 緊急集会」を開きました。20 団体のリレートークなど、YouTube で見た「戦争をとめよう」のエネルギーがつまった集会の様子を、少し紹介します。 八記久美子

≪してはいけない３つのこと≫

■実行委員長…具志堅隆松（遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」）

私は、遺骨と向き合いながら、思ったのは、「どうしてこの人たちは、殺されなければいけなかったのだろう？」「私たちはどうして、この沖縄が戦争になることを、避けることができなかったのだろう」という事でした。

それで私は、沖縄戦の生き残りのお年寄りの人たちに、何度も聞きました。すると、「当時は戦争反対などを口にしたら、すぐ捕まって大変なことになったんだよ」って言うんです。要するにものが自由に言えなかったんです。今はどうにかかろうじて言えます。私たちがこういう集会を持つことができます。

私たちが今選択するべきは、シェルターとか避難ではなく、ここ沖縄を戦場にさせないということです。今、考える暇を与えないぐらいの、ものすごいスピードで軍事化が進んでいます。これを回避するには、私たちが声をあげなければいけません。

今、自衛隊とアメリカに、戦争をはじめる引き金を引かせないためには、私たちが声を上げないといけません。

私がずっと遺骨収集をしていて思った、大事な三つの事があります。「人を殺してはいけない」「殺されることを認めてはいけない」そして「自分で自分を殺してはいけない」という事です。この間違った三つのことが、沖縄戦の時、日本軍から我々に命令されました。そして我々はそれを受け入れてしまうという過ちを犯したんです。だから今は、絶対それを避けないといけません。

≪人口 20%が自衛隊員に≫

■猪股　哲（与那国島・町民の立場で）

中国が台湾近海で軍事演習しましたよね。あれって EEZ に落ちたミサイルの弾頭に火薬は入ってないんですよ。空っぽなんですよ。落ちたら水中にぽつんぽつんって落ちるだけ。そんなことを大騒ぎして、恐怖をあおってるんですよ。与那国島は 1500 人しかいない島。今、自衛隊が 210 人配備されようとしてるんですよ。人口のやがて 20%になるんですよ。そういう中で発言するって、大変なことなんですよ。もう周りにモノも言えない状況になってる。

こんなに人が集まってくれて、与那国島のことを心配してくれる人がたくさんいるんだなと思うと、本当に勇気づけられます。ぜひ連携して、与那国島の平和を守っていきましょう。

≪ミサイルから逃れる安全な場所はない≫

■波照間忠（石垣島に軍事基地を作らせない市民連絡会）

戦後 78 年間基地のなかった石垣島に、2019 年、自衛隊駐屯地建設が強行着工され、この 3 月、陸上自部隊のミサイルが配備されようとしております。与那国駐屯地では米軍と共同利用され、ミサイル配備、軍事共用空港、港湾整備計画などが持ち上がっています。石垣・宮古も今後そういうことになりかねません。また、ロシアによるウクライナ侵攻は一年になりますが、戦争を終結させることが困難であることが行動から見て取れます。ミサイルから逃れる安全な場所がなく、民間人の犠牲は防げないことを示しています。絶対に戦争はしてはならないのです。

私たちは、日常的に口にする水や農業用水など、たくさんの問題を市民と共有しながら、解決に向けて取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、戦争絶対反対の声を、政府に米国に中国に世界中に届けで行きましょう。

≪おばあたちの前で、涙を流した役人≫

■浦島悦子(ヘリ基地反対協議会)

私たち辺野古・大浦湾の沿岸住民は、25 年以上にわたって、新基地建設問題に翻弄されてきました。当初新基地反対の最前線にいたのは、辺野古のおばあたちでした。私ももう後期高齢者ですけど、私のお母さんぐらいの世代の方々です。「海は命の恩人。基地に売ったら罰が当たる」が、彼女たちの口癖でした。

沖縄戦の地獄を体験し、家族を失い、そして焼け野原の中で海の恵みによって命を繋ぎ、子どもを育ててきた彼女達を支えている二つの大きな柱があることを、私は感じました。一つは子や孫たちに二度と戦場(いくさば)の哀れを味わわせたくないという強い思い。もう一つは命を育んでくれた、海に対する深い深い感謝の気持ちです。

ある時、辺野古漁港で座り込んでいる私たちのところに、那覇防衛施設局(現沖縄防衛局)の役人が来ました。その役人に、おばあたちは沖縄戦の体験を語り、「基地はぜったいならん」と言いました。「どうしても作るというなら、私を殺してから行きなさい」と言うおばあたちの前で、役人は涙を流してそのまま帰っていきました。今、沖縄防衛局は本当に問答無用です。

私はおばあたちが教えてくれた一番大切なものである、平和、そして私たちの生きる基盤である自然をこれ以上損うことなく、次の世代に手渡すことが、今を生きている私たちの責任だと思っています。命溢れる大浦湾、命溢れる琉球の島々を、私たちの手に取り戻しましょう。

≪大砲の音が止んで新しい戦争が始まった≫

■高里鈴代(沖縄平和市民連絡会)

みなさん、今ミサイルが飛んでくるとかドローンとか、新しい兵器が出されていますよね。でも、戦争になって軍隊が侵入してくると、どうなるでしょう。沖縄戦はどうだったんでしょうか。大砲の音が止んで新しい戦争が始まったんです。それは女性に対する暴力です。多くの多くの沖縄の女性たちはレイプの被害にあいました。そして何人かは赤ちゃんができました。何人かは殺されました。ベトナム戦争が続く中で 1 年間に 5 人の女性が殺されるというのは、戦争が起こる起こらないに関わらず、米軍基地が存在していること自体が問題なんです。本当にこんな米軍基地を受け入れていいんでしょうか。本当にこれをなくさなければ、新たな気持ちで暮らせない、そういう思いで沖縄を戦場にさせないために、沖縄のほかの国の人たちともつながりながら、頑張っていきましょう。

集会後、県庁前広場から奥武山公園まで、デモ行進も行われました。

また、集会中も、右翼の車から大音量の進軍ラッパの音が流されるなどの妨害がありましたが、集会は平然と続けられました。

浦島悦子の連続エッセイ ≪南の島から≫ №39

「共同売店」の危機と未来

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター

「共同売店」をご存知だろうか？　沖縄島や、その離島の一部にあり、一つの字（あざ=区）を単位に、その住民(区民)が共同で出資・運営する商店。起源は1906(明治39)年、沖縄島最北端の国頭村奥区（集落）で生まれた「奥共同（売）店」だ。

当初の奥共同店は、区民の生活のほぼすべてを賄っていた。生産部門として製茶(奥のお茶は今でも有名)・精米・酒造・電灯業があり、また、区民が必要とする消費物資の仕入れ・販売、区民の生産した林産物・農産物を買い取り、外部に売る事業、さらに銀行の役割も担っていた。近代資本主義の侵入から集落共同体を防衛するための一策であったとも言われている。

1925年に分区して生まれたわが三原区にも戦後、共同売店が誕生した。敗戦直後の食糧配給所から始まり、区民の生活を守る拠点として活用されて80年近くになる。奥共同店ほどではないが、当初は精米所を持ち、稲作の盛んだった三原だけでなく近隣集落からの需要も多く、区の財政は精米業で潤ったという。当時は、区民が出資し、区が直接経営する主任制（主任は区民から選出）だった。

その後、区民の個人請負へと変わったが、今日まで長年、区民の暮らしを支えるとともに、区民の交流や情報交換の場としても親しまれてきた。やんばる各地の共同売店が、人口減少や産業構造の変化、安い大規模商業施設（スーパーやコンビニ）の増加などによって経営が悪化し廃業に追い込まれる中で、三原共同売店は何とか持ちこたえてきたのだ。

そんな三原共同売店も今、大きな岐路に立たされている。これまで、売店施設のメンテナンスや修理などは区が負担し、請負する個人は区に家賃を払うだけでよかったが、施設の老朽化に伴い区が負担しきれなくなり、家賃の値上げに加え、施設のメンテナンスも請負う人の負担とすることが区政委員会で決まったため、これまでの請負者が契約更新しないことになった。「こんな条件でやれる区民はいないよ」とみんなが口を揃える中、コンビニ誘致の動きや、それに反対する若者たちの動きなど、ちょっとした波乱があった。

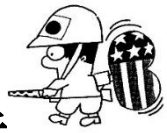
とりあえず若手の区民が区の条件を呑んで請負うことになり一段落したが、続けていけるのか、前途は多難だ。この機会に、区の歴史が育んできた共同売店の意義や未来に向けたあり方を、区民みんなで議論したいと思う。危機を好機に変えるために。　（うらしまえつこ）

≪第１弾･日米地位協定≫、≪第２弾･日米合同委員会≫が終わり、いよいよ

≪第３弾･日米安保条約≫の学習会の始まりで～す

日米安保条約連続学習会…第１回

テキスト…「日米安保体制史」(吉次公介・岩波新書)



「天皇メッセージのこと知らなかった」と参加者

はじめに

本書(テキスト)は、日米安保体制の構造的特質を、「非対称性」「不平等性」「不透明性」「危険性」というキーワードで整理し、日米安保体制が、いかに形成、持続、変容してきたのかという観点から、日米安保体制の歴史を考察する内容となっています。

また、本書は「日米安保体制」を、日米安保条約及びそれに関連する諸取決めに基づく軍事領域を柱とし、政治・経済領域も含む、安全保障に関する日米の協力体制と定義しています。軍事領域における要点は、①日本の対米協力や日米防衛協力、②在日米軍基地の運用、③米軍基地問題です。

講師

天久泰(弁護士・辺野古土砂北九州顧問)

※今回も、講師の天久弁護士に「まとめ」をお願いしました。以下、テキストの内容の要約です。小見出しは省略していますが、編集者の方でキーワードとなる文言･事項を太字にしています。

「日米安保体制の成立」

(1) 1947 年 3 月にマッカーサーが講和条約の早期締結による占領終結を提唱した。日本側の課題は講和条約成立後、日本が独立を回復し、占領軍が撤退した後の安全保障であった。同年 9 月作成の芦田均外相の決裁を経た「芦田メモ」は、日米間で特別な協定を結び、有事に米軍が日本に駐留する構想を記したもので、米軍による安全保障を初めて選択した構想であった。同月には**昭和天皇が沖縄を軍事基地として米国に長期間貸与することを提案する「天皇メッセージ」を米側に伝えた。**

⌘

(2) 沖縄戦以来、米軍が占領する沖縄について、米国側に日本の領土と認めさせ

た上で基地を租借するべきと考える国務省と、領有か国連の戦略的信託統治を求める軍部の間に意見の相違があった。

⌘

（3）1948 年に大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国がそれぞれ米ソの支援のもとで成立、1949 年 10 月には中国共産党が中華人民共和国の建国を宣言した。

1950 年 2 月に日本とその同盟国を仮想敵とする中ソ友好同盟相互援助条約を締結すると、米中の亀裂は決定的となり、米中対立を軸とするアジア冷戦の枠組みが形成された。

日本国内では、すべての交戦国が調印する全面講和（冷戦における中立堅持・軍事基地反対）か、ソ連を排除した片面講和かで論争が続いたが、吉田茂首相は片面講和を選択した。

1950 年 6 月に朝鮮戦争が勃発し、朝鮮に出撃した占領軍の穴を埋めるために、マッカーサーの命令で７万５000 人の警察予備隊が８月に発足した。GHQ は野党による警察予備隊批判を禁じた。警察予備隊は国会での自由な討論なしに始まったのである。

⌘

（4）対日講和に関する米軍部の基本方針は日本全土を潜在的な基地とみなす「全土基地方式」であった。

また、米軍部は米ソ戦争の危険があるなかで日本防衛義務を負うことを拒否した。第二次世界大戦後、大幅な動員解除を進めていた米軍にとって日本防衛は重荷であった。1950 年 10 月の朝鮮戦争への中国参戦で、米軍部は日本の再軍備をより一層重視することになった。米軍部にとって講和条約は日本再軍備を促進する触媒であった。

対日講話方針を定めた米国は、1950 年 11 月に、日本への賠償請求権を基本的に放棄し，日本の再軍備や工業生産能力に制限を設けない「寛大な講和」路線を明らかにした。

⌘

（5）日本側は国民の批判をかわすため、米軍駐留に関する日米協定を講和条約とは別に締結することを希望したが、米側の協定案には米軍部の求める特権が露骨に示されていた。そのため日本側は、安全保障条約と国会の批准が不要な行政協定の二本立てとし、行政協定で米軍駐留の詳細を定めることになった。

⌘

（6）米側は、再軍備をするまで「相互援助」を与えることができない日本とは国連憲章を根拠とする「集団自衛」関係に入れないとし、自衛の手段を持たない日本の「希望」に応えて米軍が日本に駐留するという形を提案した。これがそのまま安保条約前文に明記されることとなった。安保条約は「駐軍協定」というべきものであり、「同盟」と呼ぶにはほど遠いものであった。日本の「希望」に応える米軍駐留という論理はその後の安保「ただ乗り」論へと道を開く重大な問題であった。

⌘

（7）安保条約に関する日米交渉では、日本有事だけでなく「極東」での有事に米軍が対応できるように「極東条項」が挿入されたが、国会では米国の戦争に巻き込ま

れるとして強い批判を浴びた。また、**米軍を日本防衛のために「使用することができる」との文言が入り、米軍の日本防衛義務が不明瞭になった。**サンフランシスコ講和条約第3条では、沖縄が国連の信託統治とされるまでの間、米国が沖縄を統治することが規定され、日本本土から分離された。

⌘

（8）日米行政協定では、他の同盟国との間ではない「全土基地方式」、米兵・軍属とのその家族の犯罪について米側が裁判権を有することが定められた。また、**有事の場合の日米の統一司令部の指揮権に関する密約が交わされ、**刑事特別法などの多くの特別法が生み出された。これについて憲法に適合的な「憲法体系」と、それに矛盾する「安保体系」という**「二つの法体系」**が形成されたと指摘された。

こうして**講和条約、安保条約、行政協定、特別法、密約という五層構造から成る日米安保体制が成立した。**

⌘

（9）**安保体制の構造的特質として、**①米軍に日本を守る義務はない、日本は米国の領土を守らないという片務性と結びつく「非対称性」、②独立国にふさわしくない瑕疵を持つという意味の「不平等性」、③密約で処理をするような「不透明性」を持つようになった。（あめくやすし）

サンフランシスコの第6軍司令部で、日米安保条約に調印する吉田首相。写真はネットから。

次回は…4月8日(土)10時20分～11時50分　zoomにて

西山太吉さん　ありがとうございました

元毎日新聞記者・西山太吉さんが亡くなられました。当会では、これまで2度、西山太吉さんを囲んで「お話を聞く会」を行っていましたので、突然の訃報に、世話人に衝撃が広がりました。

∞

たまたま読んだ西山太吉さんの本に、「資料協力」として、当会の会員さんのお名前があり、その会員さんのご協力で、西山太吉さんのお話を聞く機会に恵まれました。最初のテーマは「沖縄返還とは何だったのか」。二度目は「宏池会とは」でした。コロナも下火になったので、そろそろ3回目をと、計画を進めていた矢先の訃報でした。

昨年末出版された、「西山太吉　最後の告白」(佐高信さんが、西山太吉さんと対談し1冊の本にした)に、『岸信介の安保改定、佐藤栄作の沖縄返還、安倍晋三の安保法制定、この一族に共通する政治手法と我欲が、国民にウソをつき、自民党をここまで劣化させた元凶』『隠された真実をつかみ、国民に伝達することに生きがいを感じていた』とあります。西山太吉さんが、生涯ジャーナリストであり続けたことや、時に感じる特別な雰囲気に、「歴史の1ページを作ってきた人」を、感じたものでした。

∞

※日本で沖縄返還協定交渉が大詰めだった1971年。沖縄返還協定で、米軍が払うとされた軍用地の原状回復費について、日本側が400万ドル肩代わりする極秘文書を、西山太吉さんは外務省の女性事務官から入手。しかし、それが、国家公務員法違反に当たるとして女性と共に逮捕、起訴され、有罪になりました。しかし、政府が否定した密約について、2000年代にアメリカ合衆国で存在を裏付ける公文書が相次いで見つかり、当時の日米交渉の日本側責任者だった外務省元アメリカ局長も密約があったことを証言しました。【西山太吉さん(91歳)・2023年2月24日死去】

2021年４月。第１回目の集まりの後で、みんなで記念写真。
前列真ん中が、故・西山太吉さん

≪辺野古土砂北九州・今後の予定≫

●3月19日(日)…≪さよなら原発集会≫13時～・勝山公園・署名活動をします。
●3月25日(土)…≪小倉駅前街頭宣伝≫16時～
●3月29日(水)…≪世話人会≫14時～　生涯学習総合センター・情報学習室
●4月08日(土)…≪連続学習会・安保条約≫　10時20分～11時50分　zoom
●4月19日(水)…≪会報発送作業≫予定　14時～・生涯学習総合センター
●4月22日(土)…≪小倉駅前街頭宣伝≫16時～
●4月26日(水)…≪世話人会≫14時～　生涯学習総合センター・情報学習室

お詫び

先月号の会報に、今号で「土砂全協主催の学習会の報告を掲載する」と書きましたが、次々に新しい取り組みがあり、今号に掲載できませんでした。申し訳ありません。 たた、土砂全協の HPで、動画を見ることができます。評判の良かった学習会です。是非ご覧ください。(y)

※「土砂全協」もしくは「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」で検索してください。ページの一番下に「主な活動内容」があり「大軍拡と大増税は何のためか」のタイトルで、アップされています。

「辺野古土砂ストップ北九州」入会のご案内

年会費は個人 1000 円・団体 3000 円です。
【辺野古土砂北九州の口座は】ゆうちょ銀行　　記号番号　01700-7-166911
【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行　当座　一七九店　0166911
加入者名…「辺野古土砂ストップ北九州」
【お問い合わせ】大野保徳　090-4482-0043 までお気軽に。
退会希望の方も、大野まで

≪辺野古土砂ストップ北九州≫

メールアドレス…hts@mtc.biglobe.ne.jp
〒800-0117　福岡県北九州市門司区大字恒見 122-3 藤堂方
藤堂 090-6299-2608・南川 090-2853-7116・八記 080-1730-8895

2023 年 3 月 15 日発行